

# 6-3

演題	ゆるやかな見守りネットワーク
副題	～野庭地区における取り組み～


法人名	ひまわり福祉会
施設名	横浜市野庭地域ケアプラザ

発表者名 (職種)	佐藤 真希子 介護支援専門員
共同発表者	棚山 敦子
共同発表者	浦上 優理
共同発表者	内藤 智子
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市港南区野庭町6 1 2
TEL	045 - 848 - 0111
FAX	045 - 848 - 0106
メールアドレス	carepura-hokatsu3@himawarifukushi.or.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	地域包括支援センター担当地域は、約40年ほど前にニュータウン開発され、大規模集合住宅として発展した地域、農村地域、新興住宅街が混在している地域。ニュータウン地域は、近年高齢化率が高くなっている。
---------------------------	---

## 《取り組んだ課題》

近年、家族・親族、行政、地域等との関わりが希薄で、いざという時に必要な支援やサービスをうけることが難しい、または求められない状況の地域住民が孤立化・孤立死となってしまうケースが目立ってきている。地域住民の孤立化・孤立死を防ぐために、配達サービスを行っている事業者間でネットワークを構築していこうとしました。

## 《具体的な取り組み》

- 1、野庭地区に居住する住民と、野庭地区を配達エリアとする事業者アンケート調査を実施。  
(実施期間：平成24年6月～8月)
- 2、配食業者と買物代行業者と定期的なミーティングの開催。(平成24年度 5回実施)
- 3、多事業者間の連絡会の立ち上げ。  
(平成25年3月に実施)

## 《活動の成果と評価》

- 地域住民のアンケート結果：回収数(119名)
  - ① 日々の生活の中で不安なこと、心配なこととして52%の人が「健康」を挙げている。
  - ② 宅配サービスの利用状況で新聞配達が約半数を占めている。(48%)
- 事業者のアンケート結果：回収数(10社)
  - ① 「緊急時の連絡対応について、困ったことの有無」では、有りとして、「判断に迷った時」「どこに連絡してよいかわからない」「連絡先が分かっても連絡してよいか迷うことがある」「緊急連絡先や区・包括支援センターに連絡がつかない場合」等の事例がある。
  - ② 「日常の関わりの中で、困ったことの有無」では、有りとして、「コミュニケーション」「支払いについて」等がある。
- 食事サービス事業者・地域包括支援センター連絡フロー図を作成。
- 平成25年3月に多事業者間との連絡会「見守りネットのば」連絡会を開催。配食事業者5社、新聞配達事業者1社、ヤクルト配達1社、区役所、

区社協が参加。「今後お互いの顔が見えて、連携が取れていけたらと思います。」「他事業者の方の話は参考になりました。」等の感想がある。

## 《今後の課題》

地域住民については、「地域の人々の声を敏感にとらえる。」「気づいていないことまた必要と思われる情報のインフォメーションや旬の情報の提供」に努めていく。配達事業者については、「利用者の安否が確認できない時の連絡体制を明確化する。」「緊急時の連絡(安否確認)を各セクションが受けた場合、どう動くかの具体化。」「各セクションが連携できるよ体制づくり。パイプラインの核となる機関の明確化。」があげられる。そのためには、まずは定期的集まり、顔の見える関係づくりを行っていく。地域住民が安心して、個人の情報を提供しできる信頼関係の形成。利用者を中心として各事業者が横につながり、顔の見える関係づくりを行っていく。